

保存版

下早川地区

地域づくりプラン

～「笑顔」「思いやり」「夢」の広がる下早川～



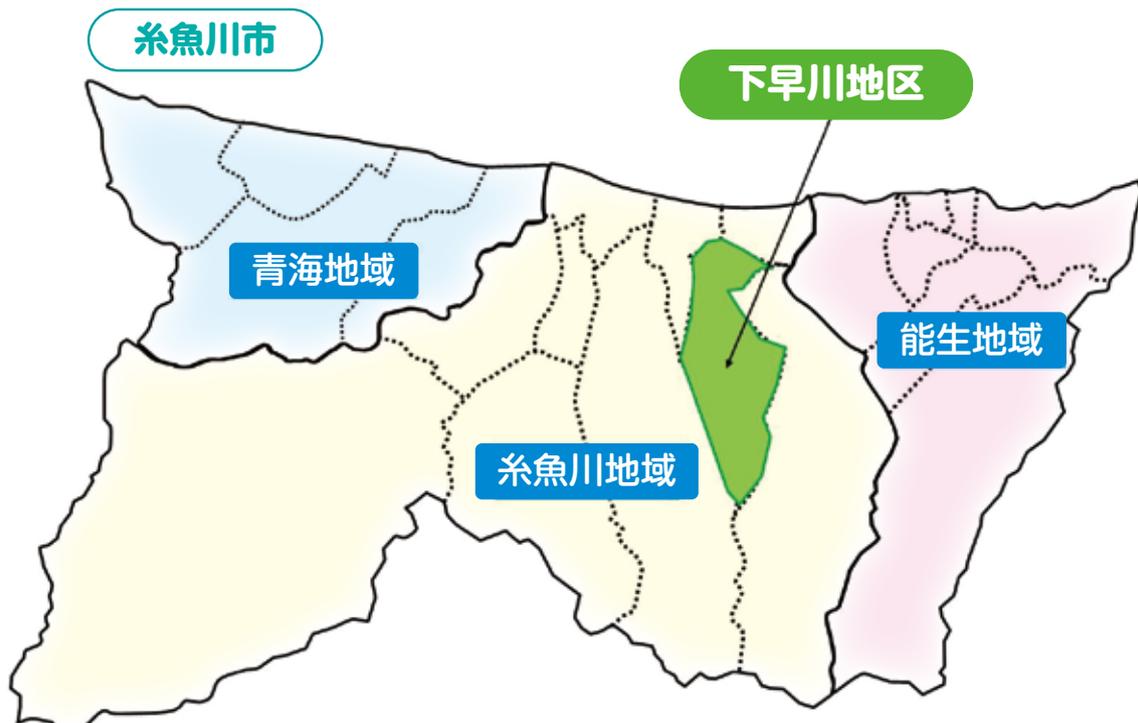
航空写真 下早川地区全景

平成28年2月
下早川自治振興協議会

目 次

1	地域づくりプラン策定の趣旨	3
2	地域づくり活動の理念と計画期間	3
3	下早川地区の現状と課題	4
4	地域づくり活動の目標、方針及び方策（イメージ図）	4
5	具体的な取組み（方策）	6
	（1）伝統行事活性化事業【提案型】	6
	（2）ニコニコあいさつ推進事業	7
	（3）特産品開発事業【提案型】	8
	（4）情報発信事業	8
6	収支予算計画（5か年）	9
7	活動推進体制	9
8	提案された他の活動内容	10

下早川地区の位置

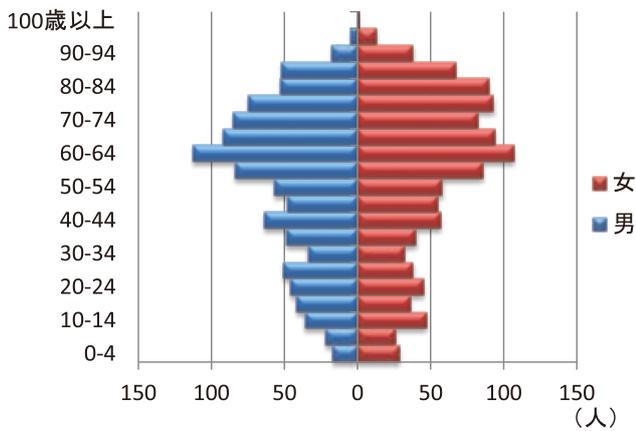


下早川地区の概要

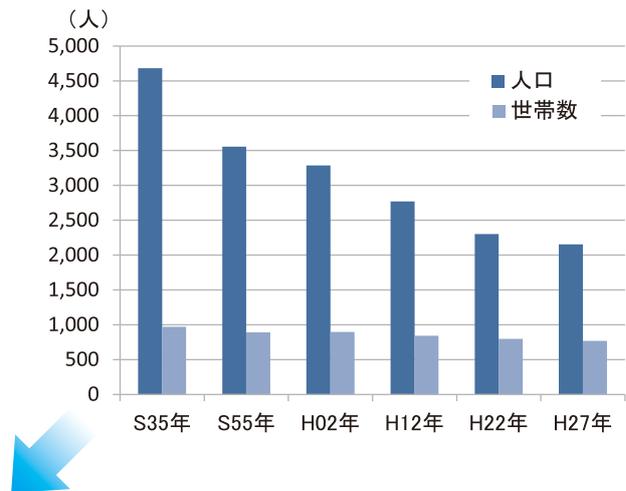
(H27.4.1 現在)

- ◆人口 2,177 人
- ◆世帯数 775 戸
- ◆高齢化率 39.41%
- ◆集落数 17
- ◆集落名 東海、田屋、育郷、清水山、田中、赤沢、新町、新道、日光寺、滝川原、出、高谷根、谷根、西塚、五十原、東塚、見滝

下早川地区人口ピラミッドグラフ
(H27.4.1 現在)



下早川地区の人口と世帯数の推移
(各年 10.1 現在)



年	人口(人)	世帯数	世の中の主な出来事など
S35 (1960)	4,682	972	カラーテレビ放送開始、高度経済成長
S55 (1980)	3,557	889	王貞治・山口百恵引退、国民の9割が中流意識
H02 (1990)	3,287	896	ちびまる子ちゃん放送開始、バブル経済
H12 (2000)	2,770	843	介護保険法施行、IT革命、不平等社会
H22 (2010)	2,302	796	子ども手当支給、バンクーバー冬季オリンピック、口蹄疫が流行
H27 (2015)	2,154	768	安全保障関連法案成立、マイナンバー法成立、NGT48誕生

地域づくりプラン策定の経過

- 平成 26 年 6 月 地域づくりプラン策定委員会発足
- 10 月 先進地視察研修 (富山県南砺市石黒地区)
- 平成 27 年 6 月 地域資源再発見「まちあるき」
(越後八十八か所、日光寺)
- 平成 28 年 2 月 地域づくりプラン完成
 - ・役員会 3 回開催
 - ・策定委員会 13 回開催



1 地域づくりプラン策定の趣旨

下早川地区では、少子高齢化や若者の流出に伴う人口減少によって、かつて賑わいのあった商店街が衰退したり、伝統行事等の存続が困難な状況となりつつあります。住み慣れた下早川の地で、誇りを持ち楽しく安心して住み続けるためにはどうすれば良いのか、住民主体による自立と協働の地域づくりを目指し、地域づくりプラン（以下「プラン」という。）の策定に取り組みました。

プランの策定は、平成26年6月に下早川自治振興協議会を母体とした「下早川地域づくりプラン策定委員会」を設立し、1年9か月、13回の策定委員会と3回の役員会を経て、下早川の進むべき道を検討してきました。

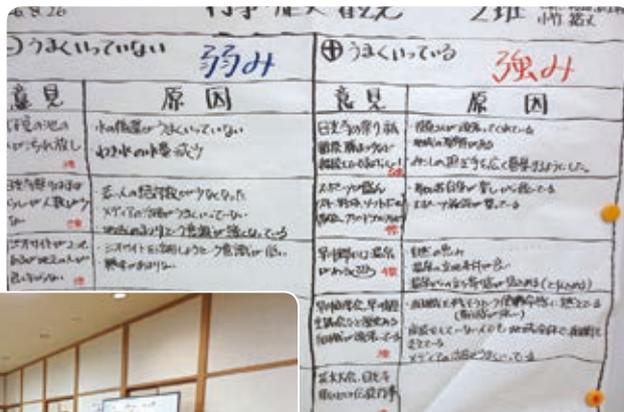
2 地域づくり活動の理念と計画期間

プランを実現するための活動は、これまでのように一部の役員に負担が集中するのではなく、地区住民全員が意欲的に参加し、積極的に取り組み継続する協働活動が重要となります。そのためには、プランを良く理解し、仲間を集め、自分ができる分野を無理せず楽しく、皆で協力して進めて行くことが必要となります。

計画期間は、平成28年度から平成32年度までとしました。



プラン策定委員会



まちあるき（日光寺）



先進地視察（富山県南砺市）

3 下早川地区の現状と課題

まずは、下早川地区の現状と課題について、策定委員会で検討を行いました。

テーマ	◎うまくいっていること【強み】	▽うまくいっていないこと【弱み】
①行事・歴史・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統行事（早川大花火大会、日光寺けんか祭り、祇園祭、藤まつり等）が継続している ・ 早川郷に温泉がある ・ スポーツ（スキー、野球、ソフトボール、駅伝、グラウンドゴルフ等）が盛ん 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事・祭りへの参加が少ない ・ 地域の役職が多い ・ 月不見の池の水が汚れている ・ ジオサイトが2つもあるが活用しようという意識が低い
②地域・生活環境・人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療、福祉施設がある ・ 学校、保育園がある ・ 東バイパスで交通の便が良くなった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分に関係ないと関わりたくない（個人主義、消極的、保守的な）人が多い ・ 車に乗れなくなった時の買い物が不安 ・ 交通機関の便が悪い
③少子高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気な長寿者が多い ・ 少ない子ども達だけど、あいさつ、学校での勉強、スポーツの成績は優秀 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者だけの人（家）が多い ・ 独身者が多い ・ 子どもが少ない ・ 若年層の減少で地域に活気がなくなってきた
④自然・食・農林業・産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然が豊か ・ おいしい水、おいしい食べ物（米、地酒等）がある ・ 小さいけれど産業の種類が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い人の働く場が少ない ・ おいしい物が沢山あるが知られていない ・ 中山間地の積雪が多い ・ 耕作放棄地が増えた



日光寺けんか祭り



月不見の池 藤まつり

(写真協力 渡辺 貴)

4 地域づくり活動の目標、方針及び方策（イメージ図）

地区全体の現状と課題を把握した後、テーマごとに活動の目指すべき方向性（方針）を導き出しました。その方針を基に、下早川地区住民が一緒になって進んでいく方向を明確にするため、地域づくり活動の目標（将来像）を定めました。その後、目標を達成するための具体的な活動内容（方策）を提案し、その中から優先して取組む4つの活動を選定しました。

糸魚川市総合計画後期基本計画
下早川地区 地域づくりビジョン
『農業、商業と観光の調和がとれた田園地区』

地域づくり活動の目標（将来像）

『笑顔』『思いやり』『夢』の広がる下早川

◆方針（活動の方向性）

テーマ	方針
①行事・歴史・観光	下早川住民が一丸となって、地域の伝統行事を見直し、存続させ、観光に結び付けることを目指す。
②地域・生活環境・人	人と人との交流を深め、生きがいを感じ、明るく楽しく、声を掛け合い暮らせる下早川を目指す。
③少子高齢化	若者が住みたくなる、魅力ある下早川を目指す。
④自然・食・農林業・産業	下早川の豊かな資源を活かし、新しい発想の産業化を目指す。
⑤情報発信	下早川の情報を収集して、地域内外に情報を発信する。

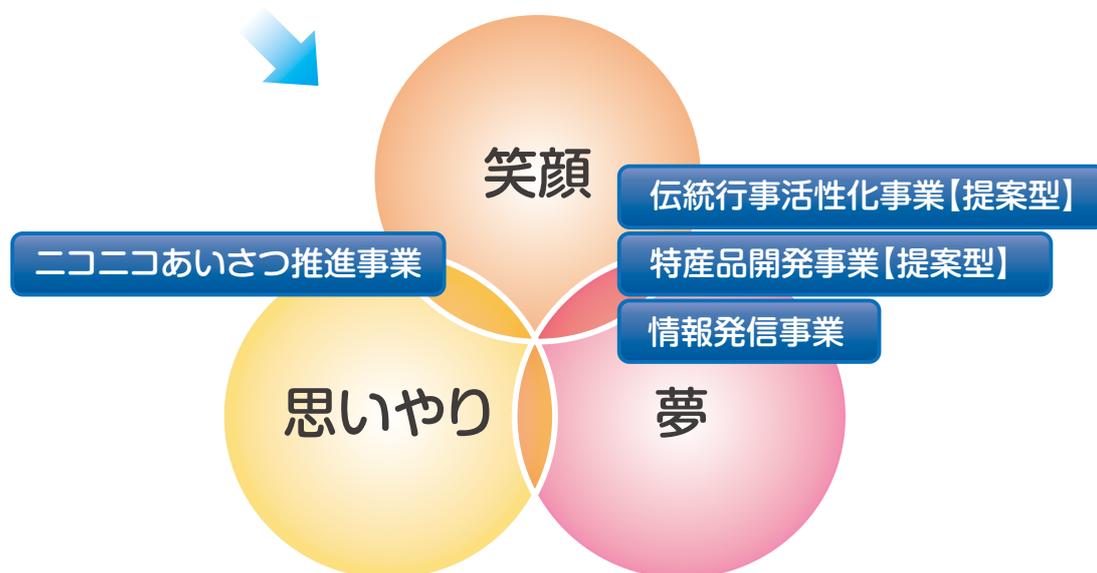
◆方策（活動内容）

「優先して取組む活動」

活動名	テーマ
1 伝統行事活性化事業【提案型】	①
2 ニコニコあいさつ推進事業	②
3 特産品開発事業【提案型】	④
4 情報発信事業	⑤

「中・長期的に取組む活動」（抜粋）

活動名	テーマ
1 文化と芸術の早川祭	①
2 集まりやすいサロンづくり	②
3 親子近居の勧め	③
4 アウトドア観光、ガイド育成	④



5 具体的な取組み（方策）

『笑顔』『思いやり』『夢』の広がる下早川の実現のため、多くの具体的な方策（活動内容）が提案されました。その提案の中から、「地区として取組める活動」を抽出し、「重要度」と「緊急度」の視点で整理を行い、優先順位をつけました。その上で、採点により合意形成を図り、優先して取組む4つの活動を選定しました。

優先して取組む活動のうち、「伝統行事活性化事業」と「特産品開発事業」については、主催者又は生業（なりわい）としている方がいることから、プランでは【提案型】として位置付け、今後、それらの方とプラン実現に向けて協議、連携する中で具体的な活動を模索していく内容となっています。

地区住民が集落を越え、地区全体で応援できるような仕組みの構築を目指しています。

（1）伝統行事活性化事業【提案型】 ※主催者への提案

『地区住民が伝統行事を良く理解し、機運を高め、地区全体で伝統行事を存続させ観光に結びつけたい』

- 伝統行事① 「日光寺けんか祭り」
- 伝統行事② 「早川大花火大会」
- 伝統行事③ 「月不見の池 藤まつり」

◆現状

下早川地区を代表する伝統行事として、「日光寺けんか祭り」「早川大花火大会」「月不見の池 藤まつり」が挙げられるが、次のような現状が伺える。

- スタッフが不足している。
- 資金集めが大変になっている。
- 成り立ち、意味、歴史が不明確なまま、形だけの継承となっている。
- 地区住民の関わりが薄い。



早川大花火大会



日光寺けんか祭り

◆課題

主催者と地区住民が一体となり伝統行事を盛り上げる。

◆達成したい目標（将来像）

「日光寺けんか祭り」「早川大花火大会」「月不見の池 藤まつり」を地区全体の行事として捉え、内容を良く理解し、機運を高め、地区全体で存続させ観光に結びつけたい。

◆活動内容の提案

「日光寺けんか祭り」「早川大花火大会」「月不見の池 藤まつり」は、下早川地区にとって掛け替えのない伝統行事です。この伝統行事を地区全体で盛り上げるための活動内容については、主催者と協議していく必要があります。

プランで検討された主催者への提案は、次のとおりです。

「日光寺けんか祭り」「早川大花火大会」

- 日光寺けんか祭りの勉強会を開催して、下早川地区の多くの人に興味をもってもらい協力を増やす。
- ホームページ、パンフレット、ポスター等を作成し、下早川地区内外の多くの人に魅力を発信することにより来客者を増やす。
- 来客者にお金を使ってもらう場所を増やす。
- 露店を増やして、祭りを賑やかにするとともに収入も確保する。
- スタッフの確保と継続を促すため、スタッフにメリットが出るような仕組みを検討する。

「月不見の池 藤まつり」

- 技術を習得、伝承するための講習会を開催する。
- ランク別（木の大きさ、年数、色、花房等）の表彰を検討する。
- 着物と共同で写真撮影会を開催する。
- ライトアップやBGMで会場を盛り上げる。
- 藤の花管理制度（里親、オーナー制度等）を検討する。
- 宣伝マンを認定する（花咲ジジババ認定）。
- 有志を募集する。



月不見の池

◆主催者

- 日光寺春季大祭実行委員会（日光寺けんか祭り）
- 早川商業会（早川大花火大会）
- 早川観光協会（月不見の池 藤まつり）

（2）ニコニコあいさつ推進事業

『みんなで元気にあいさつ運動!』

◆現状

あいさつに対する理解が不足している。

【子供】

- できる子は進んであいさつしてくれるが、中にはできない子もいる。
- 中学生、高校生と年齢が上がる程できない傾向がある。

【大人】

- 大人でもあいさつできない人がいる。
- 近所、知人にはあいさつするものの、面識が無い人には抵抗がある。顔見知りでない子供に声を掛けると不審者扱いされることが心配。

◆課題

- まずは大人がしっかりあいさつできるようになる。
- 皆があいさつの重要性を理解する。

◆達成したい目標（将来像）

- 子供も大人も観光客も、誰でも進んで笑顔であいさつができるようになっている。

- 家庭の中で抵抗の少ない時期からのあいさつ教育がされている。
- 気持ち良くあいさつできた時の喜びを感じ、人との交流ができる地域にしたい。

◆活動内容

- 地域内の各行事の中であいさつ運動の啓蒙を行う。
- 公民館の広報誌や街頭等であいさつ運動（ニコニコあいさつ月間、週間）を実施する。
- 活動普及、不審者扱い防止のために、バッジ、ベスト等を作成し携帯する。
- 「早川大花火大会」や「月不見の池 藤まつり」等と共同であいさつ標語を募集する。

◆活動を実施する人、団体

- 保育園、学校、各区自治会、公民館などの関係団体の代表者で推進班を作る。

(3) 特産品開発事業【提案型】※^{なりわい}生業としてしている方への提案

『おいしい食材を商品化したい!』

◆現状

- 下早川地区のおいしい食材が把握されていない。
- 中心になって特産品を開発してくれる人がいない。
- 加工施設が無い。
- 販路が無い。
- いきなり「レストラン」や「加工施設」は難しい。

◆課題

- 下早川地区のおいしい食材を見つけ出す。
- 販路を確保する。

◆達成したい目標(将来像)

- 埋もれている下早川地区のおいしい食材を見つけ出し、食材と料理人(加工業者)とのマッチングによって特産品が生み出されている。

◆活動内容の提案

- 下早川地区のおいしい食材を調査する。
- 食材と料理人(加工業者)とのマッチングを提案する。
- 目玉商品(特産品候補)のコンテストを開催する。
- 地元農家や、やる気のある若手と連携する。

◆活動を実施する人、団体

- 地元農家
- やる気のある若者
- 女性(特に若い主婦)
- 定年後の年配者
- JAひすい
- 学校
- 福祉施設
- 農業者団体



(4) 情報発信事業

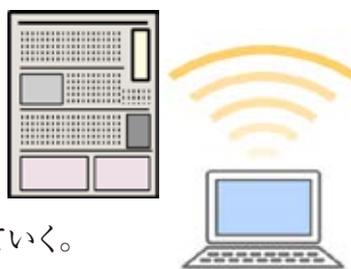
『下早川地区の情報を発信して、下早川地区に足を運んでもらう』

◆現状

- 下早川地区の情報が地区内外に発信されていない。
- 下早川地区のホームページが無い。

◆課題

- 人材を確保する。
- 情報を確保する。
- 資金を確保する。
- 新しい情報を更新していく。



◆達成したい目標(将来像)

- 下早川地区の伝統行事を含むイベント、食、観光を情報発信して、下早川地区に足を運んでもらう。
→下早川地区と都会を繋ぐ。
→お金を使ってもらう。

◆活動内容

- イベント取材する。
- インターネット(ホームページ、フェイスブック、ブログ、YouTube等)を活用して、地区内外に情報発信する。
- 紙媒体の情報紙を発行して、地区内に情報発信する。
- 地区内外の学生の目線から下早川地区を再発見する。

◆活動を実施する人、団体

- 情報収集員は、下早川地区民全員!
- 若者、女性、学生に参画してもらう。
- 自治会、商業会、公民館、観光協会、物産販売者、文化・スポーツ団体、カメラ愛好家、ママラッチ(子育て中の女性がママ目線で情報発信する)

6 収支予算計画（5か年）

各事業の収入に加え、資源物回収を地区全体で取組み、自主財源を確保します。市の地域づくり活動支援事業補助金が5年間で終了することから、個々の事業が独立採算を目指して活動して行くことが必要となります。

【収入】

（単位：千円）

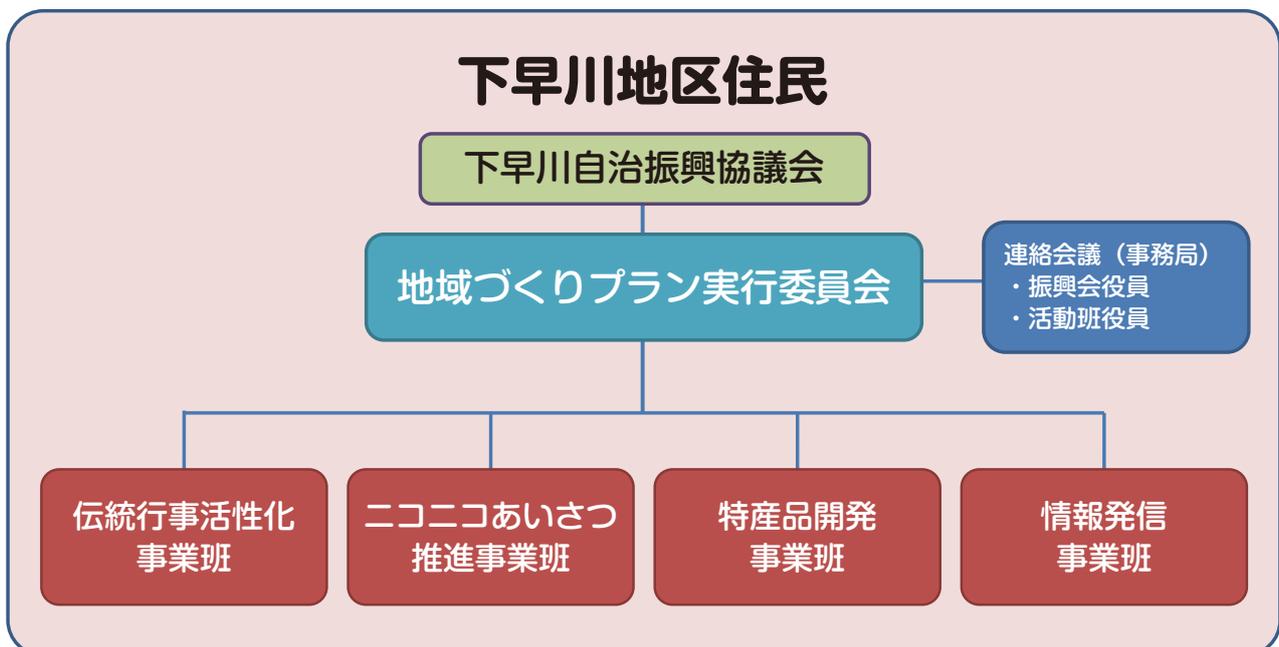
費目	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	合計
地域づくり活動支援事業補助金	853	853	853	853	853	4,265
伝統行事活性化事業	50	70	90	110	130	450
情報発信事業	30	30	30	30	30	150
資源物回収事業	100	100	100	100	100	500
合計	1,033	1,053	1,073	1,093	1,113	5,365

【支出】

（単位：千円）

費目	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	合計
伝統行事活性化事業	456	562	582	602	622	2,824
ニコニコあいさつ推進事業	139	167	167	167	167	807
特産品開発事業	99	127	127	127	127	607
情報発信事業	169	197	197	197	197	957
資源物回収事業	170	0	0	0	0	170
合計	1,033	1,053	1,073	1,093	1,113	5,365

7 活動推進体制



8 提案された他の活動内容

活動目標	番号	活動案	現状や問題点	具体的な活動内容 (地域の関わり)	実現するための課題
下早川住民が一丸となって、地域の伝統行事を見直し、存続させ、観光に結び付けることを目指す。 (行事・歴史・観光)	1	下早川地域大文化祭	秋の文化祭。公民館と小学校がそれぞれ個々に行っている。一部の関係者のみの参加になっているのでは？	下早川、早川谷全ての人々を対象に個々ではなく、全ての人々(保育園、小学校、公民館の各種団体)が一丸となり一つの大文化祭を開催したらどうか。各発表、作品展示、バザー(食品を含む)	・取りまとめ役 ・実行委員会 →大変？
	2	糸魚川東中学校区 大地と海の芸術祭 ～イーストアートトリ エンナーレ～	行事・歴史等があるが、イベント等単発で終わり、経済波及効果が図られていない。	・里山現代美術館(地域全体)として、ジオサイトプラス芸術アート建築による地域振興を図り、多くの若者女性がこの地域を訪れ、お年寄りとの交流や地域の文化に触れる機会をつくる(他地域との連携、食プロジェクト、国際化)。 ・ディレクター・プロデューサー、アーティストを招待・誘致 or 公募 ・芸術甲子園(小・中・高・大学等の作品を全国募集)	・大規模にすると経費が掛かる。 ・芸術祭の現地ツアーと研修視察を通じて、この祭に結びつける。 ・アーティストの選考 ・ボランティアサポーターの確保と地元企業、団体等との協調 ・人材確保、リピーター確保から定住促進へ
	3	下早川地域の近代史編集、発刊事業(早川今昔物語)	・旧下早川村が明治34年10月(1901年)に誕生し、115年の歴史を経て現在一つの生活圏を構成し、一体感を持って課題に取り組んでいる。 ・この間幾年の災害、病、スポーツ、文化等困難を克服して今日に至っていることを大切にしたい。 ・こうした経緯等を知る人が少なくなっている今日、今が後世に残すチャンスと思う。	ベース的資料として、東海の藤井先生が編集した「しもはやかわ」を基本に数名の編集委員で公的に再編集する。	財政的な支援を受けられれば、半年位の間に完成し、780戸の下早川住民の全戸配布し、一体感の醸成に資したい。
	4	古道を復活！古道マラソン、ハイキング	個人の土地	・古道マラソン、ハイキング ・敷地跡地での食イベント ・不動山、古道、跡地	天候に左右される。
人と人との交流を深め、生きがいを感じ、明るく楽しく、声を掛け合い暮らせる下早川を目指す。 (地域・生活環境・人)	5	藤のさと下早川を守り隊の創設事業	・下早川の伝統的祭りである日光寺のげんかまつり、藤まつり、池まつり、花火大会等の人的不足が年々深刻化している。 ・高齢者世帯の増加で冬期の雪処理が大きな不安材料となっている。	・各まつり等の主催団体の要請を受け、応援準備活動を行う。(伝統行事の継続) ・雪処理等は最小限の経費をいただく。(地域からの流出防止) ・下早川地内の「人材シルバー隊」を目指す。(高齢化社会への対応と助け合い)	・人材の確保と経費負担の在り方 ・団体からの要請は原則無償。個人要請は原則有償でどうか。
	6	サロン作り 年寄り(住民の方々)の集会場所作る(いろいろな年齢の方が集まるのも良い)	・集まることへの抵抗がある。 ・1箇所の集会場だと足が無い。	月1回程度定期的に集まりおしゃべりなど、又、市の指導者を迎えて健康など地区の交流を深める。	～公民館を使う～ ・住民の方々が集まるには足が無いことが大きく障害になっている。 ・リーダーの育成。
	7	ご近所お茶飲み会事業	1人暮らし高齢者の家が多くなってきて、隣近所の付き合いも無くなってきている。災害などときの避難などがスムーズにできない。	・同じ集落や隣の集落と繋がりを持つため、お年寄りのお茶飲み会をする。 ・車の運転できる人は送迎、料理をする人(伝統の食べ物の継承)、出し物する人、運動など、お茶を飲みながら楽しく状況などを話せる場をつくる。	誰が声を出すか？集まる単位、場所、お金など。
	8	住民トーク大会			住民全部が集まるのは無理。名字で10名位で集まり話す。
	9	冬の祭り事業	・冬(天候) ・お金	・促進センターのもみの木にイルミネーション ・広場にはキャンドル	何か収入が得られる手段が無いのか？
	10	早川堤防の活用		・早川の堤防上を整備し、各コース(2.4km～)を作り、地域住民の健康の一助とする。また、雄大な焼山を恐れるだけでなく親しむ。 ・運動広場を中心に景観ランニングコース(散歩道)を設置する。 →若衆が箱根駅伝を目指す。 ・駅伝大会の関所 ・小田原城主北条氏は塩止をしたが、越後上杉謙信はしなかった。	・知り合いがいらない。
	11	早川駅伝の拡大(上早川と連携)	早川地区で駅伝大会が行われているが参加チーム数の減少が心配されている。現状は地域の中との「制約」があるが、もう少し「枠」を広げて市内、市外のチームの参加を認めればよいのではないか。役員の数も多くなるので大変だが。	地域の皆様の自主的な参加(ボランティア)	強力なリーダーを見つけて、その人の下に全員で協力する。
	12	姉妹都市早川サミット		小田原市にある早川の人との交流会	・知り合いがいらない。 ・山梨にも芦安村の早川がある。

活動目標	番号	活動案	現状や問題点	具体的な活動内容 (地域の関わり)	実現するための課題
若者が住みたくなる、魅力ある下早川を目指す。 (少子高齢化)	13	三世同居(近距離居住)のススメ	地区外での居住が進み子育てしづらい。→少子化拍車	・三世同居に土地提供 ・二世住宅化 ・保育園、小中学校、医院、消防分遣所、スーパーがあるなど、生活基盤の充実をアピール。	・地区内近距離居住を勧める雰囲気づくり(呼びかけ)
	14	・若者の出会いの場を作る(三世で暮らす)。 ・若者が住んでみたい地域を作る。	子どもがいないという状況(みんな1人である)	・挨拶 ・工場(仕事)ができるところを作る。 ・婚活など出会いの場を作る。	
	15	若年世帯が下早川へUターンする可能性の調査をする。	下早川が一つの生活圏として存続(保育園、小学校の現状維持)するためには現在、糸魚川、青海等で民間アパート、社宅等に入っている人達から、親元近くの下早川へ戻ってもらうことが現実的、可能性高いと思う。	調査チーム(約10名位?)を作り、下早川の人でありながら、現在下早川以外で世帯を持っている現状を把握する。	個人情報重視される今日、情報の取り扱いと管理に慎重を期す必要有る。
	16	ヒトツナギ・糸魚川留学促進事業	超過疎・超少子高齢化により人口減少し、若年層の都市への流出が顕著になった。糸魚川の将来が見出せない状態となってきた。	・高校生が企画・運営する糸魚川内外の中高生を繋ぐ4泊5日の旅により、糸魚川に留学生を受け入れる体制を準備する。 ・大学生と糸魚川の中学生との交流及び一緒に授業を受ける「出前授業」(スポーツ・文化交流も)	・魅力ある高校づくりの推進 ・民間塾との連携 ・生徒のやる気のスイッチをどう見つけるか。
	17	県道、市道沿いの水田等の宅地化事業	若い世代を下早川に留めたいが、宅地化されていないため、市街地の宅地に移住されてしまう。	高齢化に伴い、水田耕作の継続が困難と考えている人が多いなか、近い将来宅地として提供できる土地を整理し、建設業者と提携して、安く宅地造成できるように、個別や短期間でなく調整し、住民に提供する。	まず地主の意向調査、造成計画等のコンサルタントが必要。農地転用がスムーズに行えるかが問題。農業を続けたい人に代替地が必要。宅地の賃貸、売買の前に造成費用がかかるため、費用負担をどのようにするか。建設業者との提携が必要。いかに安価にできるか。
	18	県道沿いに流雪溝を整備した宅地造成(しまだ医院から新町5区の間。保、学、医、スーパーが近い。)	・結婚を機に下早川から離れる若者が増えている。 ・上部から出てくる人を下早川で止めたい。	家が建つことにより高齢者や子どもの見守りに繋がる。	地権者の協力
	19	高齢者福祉施設増設事業	待機者600人以上があり、施設が不足している。	雇用確保する(都会から高齢者を誘致し、糸魚川市の負担少ない)。	福祉法人の経営力強化、介護職員確保と育成資金の確保及び補助金申請
下早川の豊かな資源を活かし、新しい発想の産業化を目指す。 (自然・食・農林業・産業)	20	農業を通じ、若者も高齢者も安心して暮らせる下早川にしたい。	1.この下早川にも農業の好きな若者も多くいると思う。しかしこの若者が農業生業に生活ができるとはいえない。 2.現状の農業はどうしても兼業農家であり、若者としては土日に家の手伝い程度の農業である。 3.下早川にも大規模農業者(請負業者)は、その家族での農業が主である。 4.この大規模農業者は米作が主であり、野菜作り、花作り等を併用していない。 5.年間での雇用にならない。年間で雇用できる仕事の確保。	1.年間雇用できる農業専門の会社を設立し、生産から販売まで一貫して行う。 2.ここに農業をやりたい地元若者を年間雇用し、一般の会社と同様な賃金制度とする。 3.又、この会社ではブランド米や野菜、果物、山菜を多く生産する。 4.これを販売する道の駅を作りここで販売も行う。	1.国道8号からこの下早川の中心部まで上がって来てもらえる様な魅力ある道の駅にすること。 2.年間を通じて販売できる商品を生産すること。 3.冬場でも魅力ある商品の生産に力を入れる。
	21	食イベント活動(農林水産業)	下早川地域にも多くのソバ打ち名人がいる。しかし、現状では楽しみ程度であり、産業的な取組みが無い。ソバを中心に下早川の食を発信することが必要。	・ソバの植栽(既に実施している所もある) ・ソバ祭り(地域のソバ打ち名人を結集する)	・人材の確保 ・実行団体の構築 ・PR、集客が可能か。
	22	アウトドア観光、体験観光(食、食材を活かす料理教室、ブレンド米、数種を交ぜる、5穀、10穀)	・フィールド、ベストスポットが整備されていない。ルート、マップ見どころ、特徴解説など。 ・ガイド、穴場を知り方がリストアップされていない。	・観光フィールド、スポットとなった場所の周辺住民の皆様より、草刈りなど環境美化をお願いする。 ・観光客が訪れた際に挨拶、会話などを心掛けていただく。	・人…リーダー、スタッフ、お客様の年齢、ニーズ ・物…観光地、見どころの選定(季節による) ・金…ガイド料金、運営費 ・情報…宣伝方法、集客方法
	23	・下早川へ人を呼ぶための活動 ・地域紹介するガイドと団体の育成	・下早川の自慢できる所があってもPRしていない。 ・市外の人温泉に行っても何も回らないで帰る。	・下早川はおもしろい所、いいものがある。 →情報発信、下早川のホームページ ・上越の熟年夫婦はウォーキングが好き。※時間あるけど金は無い。 →普段見れない所の案内、特別な秘密の場所	・実施できる団体(企業)の育成と継続 ・下早川の道の駅
	24	早川郷 他地域との交流、チーム早川結成活動	早川郷という狭いエリアで上早川、下早川と区域団体が分かれているため、今後の活動が単発、小地域になる可能性がある。	・上早川地域他とタッグを組み「チーム早川」として自然、食、農林業をプロデュースする。 ・農協、個人大規模営農者が協力して農業6次産業化をはかる。 ・地区行事で支障のないものは、他地域にも呼びかけ協力を依頼する。 ・山菜採りツアーなど観光農業(自然を活かした)に取組む。体験農業。	・地域間の問題、ギャップをどのように埋め、協力体制がはかれるか。 ・6次産業化へ導くための主導者を決められるか。 ・観光農業、体験農業、用地の確保、管理、体制づくり